

書籍紹介のご案内

コンクリート構造物の目視試験方法 ガイドブック

-NDIS 3418 対応-

編集：(一社)日本非破壊検査協会 編集委員長 湯浅 昇
体裁：A4 版, 64 頁
発行：令和 4 年 10 月 1 日
定価：本体 2,200 円 (税込) (送料別)

このたび、一般社団法人日本非破壊検査協会では、令和 4 年 9 月の NDIS 3418「コンクリート構造物の目視試験方法」改正にあわせ、「コンクリート構造物の目視試験方法ガイドブック」を発刊することになりました。

一般社団法人日本非破壊検査協会は、非破壊試験・非破壊検査・非破壊評価全域にわたり、国内外で学術調査・研究活動を展開しており、その学術活動は、非破壊検査技術の根幹をなす 8 つの要素技術分野（放射線部門、超音波部門、磁粉・浸透・目視部門、電磁気応用部門、漏れ試験部門、応力・ひずみ測定部門、アコースティック・エミッション部門、赤外線サーモグラフィ部門）と 4 つの応用技術分野（製造工程検査部門、保守検査部門、鉄筋コンクリート構造物の非破壊試験部門、新素材に関する非破壊試験部門）の計 12 部門で構成されています。

その一つである「鉄筋コンクリート構造物の非破壊試験部門 (RC 部門)」は、前身の「コンクリート構造物の非破壊試験特別研究委員会」(RC 特研) が 1988 年 4 月に発足して以来、一貫して鉄筋コンクリート構造物の非破壊検査の動向を調査し、各種研究委員会を設置し、時には日本産業規格 JIS とは異なる視点で NDIS「日本非破壊検査協会規格」を制定して参りました。

NDIS 3418「コンクリート構造物の目視試験方法」は、故笠井芳夫委員長のもと、1993 年に制定、2012 年に改正され、日本における唯一のコンクリート構造物の目視試験方法規格として、これまで利用されてきました。

しかしながら、2012 年 12 月に発生した笹子トンネル崩落事故を契機とした、昨今の構造物の維持管理に関する情勢の急展開を鑑み、内容の精査を行う必要に迫られました。こうした経緯から一般社団法人日本非破壊検査協会では、改正原案作成委員会を設置し、令和 4 年 9 月 8 日、NDIS 3418「コンクリート構造物の目視試験方法」が改正されました。

ただし、これまでの規格では、個別変状に関する試験方法を各附属書（初期不良、ひび割れ、表面劣化、漏水、変形、仕上げ材劣化）で規定していましたが、これらを入れると規格としては異例の全 81 ページとなることも踏まえ、令和 4 年の改正では、附属書として詳細な試験方法を規定しない方針で行いました。

一方で、旧規格で掲載されている附属書は、発注者などへの説明に役立ち、また、技術者向けのテキストとして活用されている実績が各方面から指摘されておりました。こうした事情を踏まえ、一般社団法人日本非破壊検査協会では、NDIS 3418「コンクリート構造物の目視試験方法」改正作業と並行して、「コンクリート構造物の目視試験方法ガイドブック」編集委員会を立ち上げ、旧規格における附属書の掲載内容を踏まえた、令和 4 年改正 NDIS 3418「コンクリート構造物の目視試験方法」対応の本ガイドブックを作成いたしました。

末筆となりましたが、編集委員会委員各位のご尽力に感謝申し上げる次第です。

(まえがきより抜粋)

